

高等学校国語(甲)教科書と

中学校国語教科書における枕草子の採録状況

高 下 正 毅

昭和三十四年度使用教科書目録(文部省)によると、高等学校(甲)総合は30種類、中学校用総合は同じく30種類あります。教科書センター事務用昭和三十五年度使用教科書目録(社団法人

高等学校国語(甲)教科書における「枕草子」の採録状況

教科書協会)では高校31種類、中学30種類。同一著者、出版者で、「枕草子」の採録方法が変わっていないものは除いて調べたので、調査した教科書は高校26種類、中学23種類となりました。

教科書名、学年	採録段	出典、章名
① 高等学校国語(総合) (彦川書店) 武田祐吉 久松潜一 吉田精一	1、春はあけぼの 2、うえにさぶらふお ほんねこは 3、すさまじきもの	日本古典全書 (古代の文学)
② 国語一高等学校用総合 (改訂版) (日本書院) 岡崎義恵 佐藤喜代治 早坂礼吾 宮崎友夫	1、春は暁 2、すさまじきもの 3、木の花は 4、野分のまたの日に そ 5、雪のいと高く降り たるを	池田龜鑑校訂 「枕草子」岩波文庫
③ 高等学校新編国語総合 (昇龍堂) 東条勝一郎 亀井勝一 松尾聰	一年1、春はあけぼの 二年2、三月三日は 三年3、すさまじきもの 4、雪山(師走の 十余日ほどに	三卷本 (古文入門) 日本古典全書 (中古の文学)
④ ※ 高等学校新編国語 総合(改訂版) (三省堂) 土井忠生	1、鈴丸 2、賀茂へ参る道に田 積りとして 3、降るものは 世の中になはいと 心憂きものは 5、雪のいと高く降り たるを	日本古典全書 (自照の文学)
⑤ ※ 標準高等国語(甲) 総合編 (教育出版KK) 池田龜鑑	1、二月晦日ごろに風 いたり吹きて 2、五月ばかりなどに 山里 3、八月晦日、太秦に 詣つとて 4、虫は 5、にくきもの	日本古典全書 (随筆文学)

<p>⑥※新編国語総合編一 (東京書籍KK)</p> <p>柳田 国男</p> <p>1、九月ばかり 2、うつくしきもの 3、村上の前帝の御時 4、御乳母の大輔の命</p> <p>日本古典全書 (古文入門)</p>	<p>⑦高等国語総合2 (明治書院)</p> <p>西沢 経一 篠田 龍一 河盛 好藏 武田 祐吉 嵯峨 隆</p> <p>1、春は曙 2、にくきもの 3、心ときめきするも 4、木の花は 5、四月のつごもりが 6、殿などのおはしま 7、さで後 8、御乳母の大輔 9、雪のいと高う降り たるを</p> <p>三 卷 本 (中古の随筆)</p>	<p>⑧新編国語新訂版I (大修館書店)</p> <p>能勢 朝次 石井 庄司</p> <p>1、春はあけぼの 2、にくきもの 3、あてなるもの 4、虫は 5、九月ばかり 6、正月十日 7、うつくしきもの 8、五月ばかり</p> <p>日本古典全書 (エッセイの味わい)</p>	<p>⑨改訂高等国語総合二 (明治書院)</p> <p>西沢 経一 熊田 龍一 河盛 好藏 河盛 好藏 今泉 忠義</p> <p>1、春は曙 2、にくきもの 3、心ときめきするも 4、木の花は 5、殿などのおはしま 6、さで後 7、雪のいと高う降り たるを</p> <p>日本古典文学大系</p>	<p>⑩高等学校新国語二総合 (続文堂)</p> <p>興土 善史 水枝 実</p> <p>1、春はあけぼの 2、うへにさぶらふ御 3、猫 4、にくきもの 5、木の花は</p> <p>出典不明</p>
---	--	---	--	--

<p>⑪総合新高等国語二全 (教育図書研究会)</p> <p>山岸 徳平 長沢 規矩也 永山 勇</p> <p>1、春は曙 2、にくきもの 3、虫は 4、ありがたきもの 5、うつくしきもの 6、野分のまたの目こ 7、降るものは 8、よるすのことより</p> <p>5、虫は 6、うつくしきもの 7、野分のまたの目こ 8、五月ばかりなどに 9、雪のいと高う降り たるを</p> <p>出典不明 (古典を読む)</p>	<p>⑫高等学校国語(総合)二 学校出版</p> <p>成瀬 正勝</p> <p>1、春はあけぼの 2、春進生昌が家に 3、憎きもの 4、木の花は 5、九月ばかり</p> <p>日本古典全書 (中古の文学)</p>	<p>⑬※高等学校国語総合 (角龍堂)</p> <p>東条 操 松尾 聡</p> <p>1、ふと心おとり 2、はかするもの 3、春曙抄本より 4、すさまじきもの 5、雪の山(師走の十日のほかに)</p> <p>三 卷 本 (「参考」として)</p>	<p>⑭高等国語 四訂版 (三省堂)</p> <p>金田 一京助</p> <p>1、春はあけぼの 2、上にさぶらふおは 3、憎きものは 4、うつくしきもの 5、五月ばかり 6、降るものは</p> <p>日本古典全書 (平安朝の女性)</p>
---	---	--	--

<p>⑮※高等国語 (潜水書院)</p> <p>高木市之助 山岸 徳平</p>	<p>⑮国語三 高等学校用総合 (筑摩書房)</p> <p>西尾 実</p>	<p>⑮国語三 高等学校用総合 (筑摩書房)</p> <p>西尾 実</p>	<p>⑮高等 学校国語総合三改訂版 (中央図書)</p> <p>遠藤 嘉基</p>
<p>1、御方々きんだちろ へ人など 2、珍しといふべきこ とにはあらねど 3、鳥はことどころの ものなれど 4、九月ばかり 5、五月ばかり</p>	<p>1、三月三日は すさまじきもの 2、虫は 3、ただ過ぎに過くる 4、大藏卿ばかり耳と 5、き人なしもの 6、うれしきもの 7、雪のいと高う降り たるを</p>	<p>1、春はあけほの 2、正月十日のほど 3、五月ばかりなどに 4、月のいと明かきに 5、降るものは雪 6、すさまじきもの 7、あてなるもの 8、はしたなきもの 9、あてなるもの 10、近うて遠きは 遠くで近きもの</p>	<p>1、春はあけほの 2、木の花は 3、あてなるもの 4、草のいほり(頭中 将の法) 5、一乗の法(御かた がた、君達) 6、うつくしきもの 7、この草子は 8、香炉峯の雪(雪の いとたこう降りた</p>
<p>三巻本より (いつくしみ)</p>	<p>日本古典全書</p>	<p>日本古典全書</p>	<p>日本古典全書 (日本の古典)</p>

<p>⑮国語三上 高等学校用総合 (KK文学社)</p> <p>原 富男 藤森 朋夫</p>	<p>⑮国語 (秀英出版)</p> <p>麻生 磯次</p>	<p>⑮高等学校 新国語総合 (三省堂)</p> <p>土井 忠生</p>	<p>⑮※新編高等学校国語三 (好学社)</p> <p>志賀 直哉 辰野 隆一 吉田 精一</p>
<p>1、春はあけほの 2、木の花は 3、あてなるもの 4、虫は 5、九月ばかり 6、正月十日のほど 7、うつくしきもの 8、日は入り日 9、</p>	<p>1、木の花は 2、五月ばかり 3、九月ばかり 4、雪のいと高うはあ 5、りで 6、御乳母の大輔の命 婦</p>	<p>1、春はあけほの 2、あてなるもの 3、賀茂へ参る道に 4、文詞なめき人 5、雪のいと高う降り たるを</p>	<p>1、虫は 2、頭中将のすざろな 3、九月ばかり 4、五月ばかり 5、よろずのことより 6、も情あるこそ 7、うれしきもの</p>
<p>日本古典全書 (古代の抒情)</p>	<p>日本古典文学大系</p>	<p>日本古典全書 (王朝の文学)</p>	<p>日本古典全書 (中古文学)</p>

②※高等学校国語三上 (KK好学社)		1、虫は 2、頭中将のすゞろな 3、九月ばかり 4、五月ばかり 5、よろずのことより 6、うれしきもの	1、日本古典全集 (中古文学)
改訂版国語三 高等学校用総合 (教育図書)		1、春は曙 2、虫は 3、鳥は 4、御乳母の大輔の命 5、正月十余日のほど 6、うつくしきもの 7、五月ばかり 8、月のいと明かき 9、この草子	田中重太郎校注 「枕草子」 (中古の文学)
③※総合高校国語 改訂版三上 (実教出版KK)		1、うれしきもの 2、すさまじきもの 3、五月の御精進のほ 4、虫は	三卷本系統 (卯の花車)
④※国語三 (秀英出版)		1、木の草は 2、虫は 3、九月ばかり 4、雪のいと高うはあ 5、御乳母の大輔の命	(花、虫、雪)
守随 憲治		麻生 磯次	

註 1 発行年月日は初版を書いた。改訂してあるものは、改訂された年と月日を記した。
 2 同一内容でも著者のちがうもの、同一著者でも内容のちがっているものはそれぞれ一冊として計算し、調査の対象とした。
 3 通し番号に※印のあるのは「春はあけぼの」の段を探っていないもの。

右の表から、一年で「枕草子」を扱ったものが六教科書で、それらの教科書に載せている「枕草子」の段数はみな五段以下であることがわかる。二年で「枕草子」を扱ったものは十教科書で、六段〜九段の段数が多く、三年で「枕草子」を扱ったものは十一教科書で六段〜十段が多くなっている。總体的に見て「枕草子」は二、三年で多くあつかわれ、また、高学年で扱うほどその段数も多い。扱う單元は大きくわけると、「中古の古典」とする場合と、「随筆」單元で学ばせる場合とがある。

出典は三卷本系統が圧倒的に多く、他は、伝能因所持本系統の春曙抄本が一つあるのみである。今日の本文状況としては、三卷本系統の方がより研究的に行なわれて来ているために損傷の度合いが少

なく、伝能因所持本より、やや優位にあると考えられているので当然の結果であろう。

この二十六教科書のうちで注目すべきものは、通し番号③④の昇龍堂出版のもので、③は一年と三年、④は二年上と三年上というふうに、二学年にわたって学習させている。③では全部で四段、④では三段というふうに、この場合採録段は少ないが、一つの作品を三年間通して学習させ、作品の一部分のみの学習で終ることなく、完全な形に近いポリュームを継続的に学ばせる工夫もあってよいのではなからうか。多くの作品から一部分づつ見本的に集めてくるのも悪くはないが、一つの文学作品を完全な形で学習することによって得られる面も、古典の学習において無視できぬと思う。

A、載せていないもの

B、載せてあるもの

1、解説文のみ

2、解説文と原文

イ、原文を一部分

ロ、原文を三段

ハ、原文を四段

3、現代語訳のみ

1、国語総合編(山本有三)

日本書籍KK

S、31・5・5発行

2、新編 新しい国語(柳田国男)

東京書籍KK

S、34 一部改訂

3、中学国語総合(岩井良雄)

二葉KK

S、33・7・20発行

4、総合国語中学校用(山岸徳平)

秀英出版KK

5、総合 中学国語三訂版(藤村作)

教育出版KK

6、中等新国語(新版)(石森延男)

光村図書出版KK

1、中等国語三訂版、五訂版とも(金田一京助)

三省堂3年KK

「古典の心」単元 田地文子(紫式部と清少納言)

発行年月日不明

1、新中学国語総合新訂版(能勢朝次、石井庄司)

大修館書店3上KK

2、改訂新中学国語(能勢朝次)

大修館書店KK3上

「古典の世界」単元解説文と「春はあけぼの」の一節

S、29・11・25発行

1、中学新国語(佐藤春夫、土井忠生)

三省堂3年KK

2、中学校新国語改訂版(土井忠生)

三省堂3年KK

「古典を読む」単元、脚注あり、日本古典全書。

S、34・2・25発行

田地文子の解説文と「春はあけぼの」「うつくしきもの」「にくきもの」

S、35発行

1、国語(志賀直哉、辰野隆、久松潜一、吉田精一)

学校図書KK3年

2、中学校国語(志賀直哉、辰野隆、久松潜一、池田亀鑑)

学校図書KK3年上

「古典入門」単元、脚注あり日本古典全書、池田亀鑑の解説文と「春はあけぼの」「あてなるもの」「にくきもの」「うつくしきもの」

S、34 発行

1、国語(岡崎義恵)

日本書院KK2年

徒然草 奥山の猫またの(参考文)としてある。

発行年月日不明

田中澄江の現代語訳「枕草子」から「五月のころに山里を歩く」「月のよく照った夜に」「降るものでは」

4、原文を載せてあるもの

イ、一段のみ

ロ、二段

ハ、三段

ニ、五段

註1 発行年月日は初版を書いた。改訂してあるものは改訂された年と月日を書いた。

2 同一内容でも著者のちがうもの、同一著者でも内容のちがっているものはそれぞれ一冊として計算し、調査の対象とした。

1、改訂版 中学標準国語（今泉忠義、飛田隆、飛田多喜雄）教育出版K K 3上 S、31・4・5発行
「随筆」単元、口語訳と頭注あり、出典不明「春はあけぼの」

2、国語（総合）（武者小路実篤、興水実、飛田多喜雄）二葉K K 3下 S、33・5・20発行
「古典のかおり」単元、脚注あり、出典不明「うつくしきもの」

3、国語総合（風巻景次郎、平井昌夫、上甲幹一）開隆堂出版K K 3上 発行年月日不明

「古典の姿」単元、脚注、日本古典全書「春はあけぼの」

1、国語（西尾実）筑摩書房K K 3上 S、31 発行
原文のほとりに語訳、出典不明「うつくしきもの」「にくきもの」

1、私たちの国語（麻生磯次）秀英出版K K 3上 S、31・3・25発行
「紀行と随筆」単元「春はあけぼの」「にくきもの」「香炉臺の雪」

2、国語総合編中学校（時枝誠記）中教出版K K 3下 S、31・6・5発行
「古典入門」単元、脚注、出典不明

「春は曙」「にくきもの」「月のいと明かきに川を渡れば」

3、中学国語「土岐善麿」中教出版K K 3下 S、33・6・5発行
「古典」単元、脚注、出典不明

「うつくしきもの」「風は」「月のいと明かきに」

4 模範中学国語改訂版（金子武雄）実教出版K K S、31・7・15発行
2下「昔の物語」単元、口語訳で頭注がある。田地文子「古典文学教室」の翁丸

3下「古典の鑑賞」単元、頭注あり、出典不明、九月ばかり、春はあけぼの

中等新国語総合編（改訂版）（垣内松三）光村図書出版K・K 3下 S、31・6・5発行
「古典を学ぼう」単元、原文の横に語訳、出典不明（春曙抄本か？）

「春はあけぼの」「三月二日は」「祭のころ」「うつくしきもの」「上にさぶらふ御猫」

右の表で気づいたことを簡条書きにすると、

- 1、6²³が「枕草子」を全然載せていないこと。参考文として入れているのが一つあるので、それも加えると7²³となる。「枕草子」を載せていないもの多くは「徒然草」を代わりに載せている。
- 2、解説文のみが一つ、口語訳のみが一教科書あり、それらをふくめると、23教科書のうち「枕草子」の原文にふれぬものが9²³あること。
- 3、原文で載せる場合は三年に限られ、二年の場合口語訳であること。(二年で載せたのは岡崎氏と金子氏の二教科書で、そのうち金子氏のは三年でも枕草子をあつかい、今度は原文である。)
- 4、一教科書の採録段が最大五段で高校とくらべて多くないこと。
- 5、原文のほとりに語釈をつけたり、注を多くつけたりしてやさしくしてあること。
- 6、「枕草子」を随筆単元で扱ったものが二つあること。
- 7、出典は朝日新聞社の日本古典全書「枕冊子」田中重太郎校注が圧倒的に多いこと。
- 8、ここでもやはり実教出版で、二年下と三年下の二年にわたって学習させる試みがある。

以上である。

																		通し番号	
																		校での列	
																		学での列	
																		段名	
																		校での数	
																		学での数	
18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	1	1
16	16	16	13	13	13	10	10	10	7	7	7	4	4	4	3	2	1	1	1
		4			7		5	5		2	7		7	3	7		1	1	1
春はあけぼの 虫は 五月ばかりなどに山里にあ りく にくきもの 九月ばかり 木の花は 雪のいと高う降りたりを 美しきもの すさまじきもの 上にさぶらふ御猫 あてなるもの 御めのとの大輔の命婦 降るものは 正月十余日のほど うれしきもの 月のいとあかき 野分の又の日にこそ よろずの事よりも																			
3	3	3	4	4	4	5	5	5	8	8	8	9	9	9	10	12	15	1	12
		3			1		2	2		8	1	7	1	7	1				

39 38 37 36 55 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19
 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 21 21 21 21 21 21 21 21 16 16

7

鳥はことどころのものなれど
 頭中将のすずろなる
 心ときめきするもの
 殿などのおはしまさで後
 三月三日は
 賀茂へまいる道に
 雪の山
 雪のいと高うはあらで
 御方方君達
 この草子
 はしたなきもの
 近かうて遠きは
 遠くて近きは
 四月のつごもりがたに
 ありがたきもの
 日は入り日
 世の中になほ
 文詞なめき人
 二月晦日ごろに風いたらふ
 きて
 八月晦日太秦に詣つとて
 村上の前帝の御時に

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3

1

45	45	44	43	42	41	40
	29	29	29	29	29	29
13	探録された段の合計					
163	1	1	1	1	1	1
41	ただ過ぎに過ぐるもの 大藏卿ばかり耳とき人なし 五月の御精進のほど 大進生昌が家に ふと心おとりとかするもの めずらしといふべきにはあ らねど					

注 「風は」「祭の頃は」（春曙抄本系）が中学教科書にあるの
 で11+2+13となる。又、類数も39+2+41となる。

この表で気がつくことは、中・高ともに「春はあけぼの」の段が
 断然多く採録されているということ。中学の十三段にくらべて、高
 校は四十五段と、多くの章段が採録されているということ。中学と
 高校の序列が一致しないこと。中学では、高校教科書で採録してい
 ない「風は」と「祭りの頃は」があること、などが注目され
 る。

「風は」は「夏に暑くてもてあました生絹すずしの単表さえ、いつのまに
 か綿衣わたぎぬの上は着ているのがおもしろい。強い風がさつと吹いて顔に
 あたつてつめたいたいのも興がある。」といった意味の短い文である。
 そして、観察がいかに女性らしく、また鋭い。「祭の頃は」「賀
 茂祭の時分になく時鳥が、遠くそら耳かと覚ゆるまで、たどくし
 くなくのを聞いたらどんな気持がするだろう。お祭の行列に出る女
 の子が、ふだんは奇態に跳びはねて歩くのにいよいよお祭の衣裳を

を滑てめかしたると、まるで定者という坊さんのように神妙に練って歩くさまがおもしろい。そのあとを、その身分分に相応な親とか叔母、姉がその兄の供をしていくのがおもしろい。」という文で、短い文ではないが、いかにも生き生きとしたこどもの描写がある。どちらも高校の教科書が落したのが不思議なくらい優秀な段であると思う。

中学校国語教科書において、「枕草子」を載せていないもの、または解説文のものを除いた16教科書のうち、「春はあけぼの」を採録していないものが4教科書あり、1・4を教えた。それでも全体から見ると、「春はあけぼの」が12・41で一位を占めた。「春はあけぼの」を採録していないものは、現代語訳のみの教科書一冊を除いてみな「美しきもの」を採録していたのは注目し得る。二葉KKのように、一段しか採録しないのに「美しきもの」をとるなど、慣習にとらわれない冒険もあった。「美しきもの」は「春はあけぼの」について二位である。(高校では七位)採用段の種類が全部で十三段しかないというのは、高校の四十五段とくらべるとさうと狭く、中学で学習する「枕草子」はほんの有名段に限られていることが知られる。

高等学校教科書(国語甲)二十六種のなかで、「春はあけぼの」を探らぬのが十一教科書で(11・26)、四割三分強が採っていない。中学校の(4・16)二割五分強にくらべて相当多い。高等学校国語甲教科書で「春はあけぼの」を探らぬものはかわりに「虫は」と「九月ばかり」を探っているようである。(「春はあけぼの」を探っている十五教科書のうちで「虫は」をとっているもの五教科書、「九月ばかり」を探っているもの三教科書で、合わせて八。だから

8・15。「春はあけぼの」を探っていない十一教科書のうち「虫は」をとっているもの七教科書、「九月ばかり」を探っているもの六教科書で、合わせて十三。だから13・11となり、「春はあけぼの」を探らない教科書は、そのかわりに「虫は」と「九月ばかり」をとっていると言っていると思う。)

「虫は」の段は「蟻虫は鬼の生んだものなので、親に似てこれもおそろしき心あらむと思つて、親のきたない衣をきせて『秋風の吹くおりに来るから待つていよ』といひおきて、逃げていったのも知らず、八月頃になると『ちちよちちよ』とはかなげにないて、たいそうあわれである」という段で、西郷信綱氏の言われるように(「日本古代文学史」岩波書店、一九五九年四月二十日第十一刷発行、P.118)清少納言の本心であるヒューマニステックな心情が、虚栄心とか富中へのおこがれなどの衣をぬぎさつて久しぶりにあらわれたところである。そしてこの段は、池田亀鑑氏が「諸本の間に本文の異同が少なく、先ず典型的な類型段とみなされる。」とアテネ文庫の(枕草子)で言っているごとく、教材として適当なものであると言える。

「九月ばかり」は「一夜一夜降りあかした雨が軒の上にごぼれ残った蜘蛛の巣にかかって、白き玉を貫ぬきたるようなのがおもしろい。少し日がたけると、露がおちたために人もふれぬのに枝が動き、上さまにあがるのもおかしい。こんなことは人にはちつともおもしろくもあるまいと思つたことがまたおもしろい」という段で、文も短く、ひきしまつており、しかもその中に「前栽」「透垣」などというよく出てくる語もあり、何よりもこの作者の特徴である鋭い感受性のよくあらわれていることがあげられる。

最後に、作者の思考の中では複雑な方に属する自己描写があり
（「枕草子評釈」阿部秋生著、東京堂KK、昭和三十四年四月三十
日第三刷発行、p.155）、これが作者の気性をよくあらわしている。
「虫は」も「九月ばかり」も「春はあけぼの」に劣らないよい教材
であるということかできると思う。「春はあけぼの」の段を、「枕
草子」の現存諸本のなかで欠いているものはなく、どれもが一致し
てこの段を巻頭に置いている。加藤繁齋や北村季吟のように、清少
納言がこの章を最初に書いたものとして、「此初段は一部の大綱な
れば先発端にあめつちの運動四季の気色にもとづいて……」と考え
るのはゆきすぎとしても「春はあけぼの」の段が「枕草子」の代
表的段であることは、描写の秀れているところからも言えるであろ
う。

（三原市立第三中学校教諭）